

2017年8月22日

## 欧州軍縮会議での高校生平和大使演説見送りに抗議する談話

日本労働組合総連合会北海道連合会  
事務局長 杉山 元

ジュネーブ軍縮会議で核兵器廃絶を世界に訴えてきた「高校生平和大使」の演説が、本年は見送られたと報道された。

その理由は、本年7月に採択された核兵器禁止条約について高校生平和大使が「共感」を示しており、「日本政府が署名しないと明言する条約について演説で言及されることを懸念した」とされている。

その通りであるならば、日本政府・外務省の見識を疑う。嚴重に抗議する。高校生平和大使の軍縮会議での演説に対し、各国の大使がステートメント（声明）を発表し、その認知度・重要度が増しているのは、唯一の戦争被爆国である日本の10代の高校生が、何ものにも左右されず、自分たちが考えた核兵器廃絶に関する思いや、平和に対する意見を自由に述べるからであり、その立場を「日本国政府」が保障しているからである。

日本国政府の主張を、そのまま述べる、あるいは述べないのであれば、誰も耳を傾けない。

「北海道高校生平和大使派遣実行委員会」（連合北海道・北海道退職者連合）は、今年も北海道から二人の高校生平和大使を選出した。

今年選出された高校生平和大使は、札幌市や室蘭市などで街頭署名を行い、軍縮会議などでの演説を想定して英語力を鍛え、北海道各地から頂いた約9万筆の署名を携えて、第20代高校生平和大使22人の一員として、ジュネーブにある国連欧州本部軍縮会議に赴いている。

各国政府、政府と市民社会、そして個人と個人は、意見の違いがあっても当たり前であり、それを認めて自由に主張し、より良い方向へと議論を深めること、それを保障することが「民主主義」である。

日本国政府のジュネーブ軍縮会議で核兵器廃絶を世界に訴える「高校生平和大使」の演説の見送りに、嚴重に抗議する。

以 上